

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2278100066
法人名	社会福祉法人聖隷福祉事業団
事業所名	ほのぼのケアガーデン
所在地 (電話番号)	浜松市北区引佐町東黒田37-2 053-544-0781
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年3月29日

## 【情報提供票より】(平成20年3月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.62人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

### (4) 利用者の概要(平成3月29日現在)

	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	91 歳	最低	85 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎮玉診療所、引佐赤十字病院、聖隷三方原病院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山間に、社会福祉法人聖隷福祉事業団としての施設として山の斜面に建てられている。下の段には 特別養護老人ホームの施設があり、上の段にデイサービスとつながって建てられているグループホームである。併設のメリットを活かし行事や催しものなど合同で実施したり、レベルに応じた対応などもあり、利用者や家族からは感謝され、地域からも信頼され、協力体制もある。施設の周りは美しい花や木々に彩られていて、地域のボランティアに支えられており、老人クラブや、お年寄りの畑作業員など日常的な出入りの多い施設である。管理者の理念に基づいた前向きな姿勢、少しでも良くしていこうとする熱意の感じられるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、飾り付けに一考をということであったが、それに代わり、その時々写真や作品などが掲示されていた。また、季節の花が生けられ利用者に刺激を与えていた。今後も利用者と一緒に水を替えるなどの活動を生活に取り込みながら、新鮮味溢れるホームとなっていくことを望みたい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の訪問調査においては、施設長・副施設長・GHリーダーと3人同席し、サービスの質の向上に結び付けようとする姿勢がうかがえた。自己評価については、管理者が作成されていたが、職員自らの質の向上に結びつける意味からも、全職員で自己評価に取り組み、意識を合わせたケアの振り返りや見直しの機会とされるよう検討されたい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1度確実に開催されている。管理者が「ねた切れ」状態であると言うほど話し合われており、地域との交流も良好である。今後は多方面からの幅広い立場の人、民生委員、自治会の役員などにも参加を呼びかけ、地域との交流、理解と支援を更に得られるよう検討され運営推進委員会が益々充実したものになっていくよう期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人として、特別養護老人ホーム、通所介護事業所なども併設しており、そのメリットも利用されている為、利用者や家族には大変安心感を与えている。アンケートでも改善点は何もなく、喜ばれている記述ばかりである。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人施設の周りは、花と木々に囲まれた自然豊かな美しい景観である。中でも花畑は目を引くが、地域のボランティアに支えられている。地域の人たちが、園芸作業にしばしば訪れたり、老人クラブに場所の提供をしていたり、中学生の職場体験も受け入れている。ドライブで地域にもよく出かけており、野菜や果物を頂いてくるなど、地域との交流は定着している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほのぼのの家のみんなが、居場所を感じられる家作り・利用者と職員が、“あなたがいてよかった”と、思い合える馴染みの関係を築くことで居心地がいいと感じられる家作り」を理念としている。	○	「家庭的な環境の下で」の理念と共に地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を加えられるよう検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議を通じて話合いの場を持ち理念を共有している。法人職員の全体会・研修会においても理念について触れ意識付けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人合同の夏祭りには地域の人たちも参加し交流している。園芸作業などで、地域の人たちもしばしば訪れており、老人クラブには場所の提供などもしている。中学生の職場体験も受け入れており、ドライブで地域にもよく出かけ野菜や果物を頂いたりするなど、地域との交流は定着している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員に回覧されており改善事項は概ね改善されていた。評価の訪問調査においては、施設長、副施設長も同席し、この機会を通じて更にサービスの向上に結び付けようとする姿勢がうかがえる。自己評価については、ほとんど管理者が作成しており、職員の参加は見られない。	○	自己評価の作成については、職員自らの質の向上の為に、全員で取り組み、意識を合わせたり、ケアの振り返りや見直しの機会とされるよう検討されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、老人クラブ元代表、家族代表、地元中学校校長等で構成されており2ヶ月に1回定期的に実施されている。	○	地域との交流は良好であるが、さらなる理解と支援を得る為にも、多方面から幅広い立場の人、民生委員、自治会の役員などにも参加を呼びかけることを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員が月2回来園して、利用者とのコミュニケーションを図り、職員とも情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月届けられる広報誌や、金銭管理の報告と共に、健康状態については、個々に電話連絡をしている。生活の写真も掲示してあり暮らしぶりを知ることが出来る。アンケートにも家族が安心して満足していることが、表れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情の受付についての窓口担当者や受付機関が表示してある。家族会が年に一度、その他諸行事もあり、運営推進会議にも代表が出席しているなど、意見を表せる機会が多々設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、ホームでの利用者や職員との馴染みの関係の大切さをよく理解しており、担当制にしたり、極力異動を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人自体の研修室も有しており、聖隷福祉学会での事例発表、リーダー研修など、積極的であり、ホーム内外の研修も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜松市介護サービス連絡協議会において、研修・交流の機会がある。施設交互見学研修では、受け入れたり派遣したりと前向きに取り組む、質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人は併設のデイサービスや、福祉施設、その他諸事業など実施している為、個々の状況もよく把握している。本人も雰囲気にもなれており、違和感なく馴染んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「こころに寄り添い、共に生きるケア・お互いがいてくれて楽しいと思える毎日・笑顔を引き出せるケア」を心がけたいと話す。運営規定の中でも、「職員は、一方的な介護の提供者ではなく利用者と生活を共にするリビングパートナーとする」とうたっていて支えあう関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ドライブの帰りに自宅へ寄ったり、顔なじみの方と出会ってお喋りを楽しんでいる。また、お茶碗を買いに行ったり、お寿司屋さんへ行ったりなど、本人の希望や意向に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、一人ひとりのアセスメントや暮らしの現状を基に、職員同士が話し合い、入居者の特徴を踏まえ作成されている。家族に説明し、同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1回見直している。それ以前に状態に変化が生じた場合には、その変化に対応した介護計画を作成している。重要事項説明書にも介護計画作成の手順が載せてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されている特養やデイサービスとの連携がうまく取れていて、臨機応変に対応している。病院への送迎や要望に応じ外食などにも出かけている。家族の宿泊も出来るようになっていく。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係もよく、看護師とは連絡を密にしている。利用者の状況に応じて往診医療も受けており、受診の際には職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人事業団内に併設して特別養護老人ホームがあり、重度化した場合などには、関係者と話し合い適切な対応が出来るよう連携し、対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげないことばでトイレへの誘導をしておき、利用者の誇りを損ねない対応が見られた。個人情報ファイルなどは、事務所で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、朝食、入浴などの時間についても利用者の一人ひとりのペースに合わせるなど、利用者本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中には、昼食の盛り付けから下膳、食器洗いを張り切って、自分の仕事としている入居者もみられた。一人ひとりの力にに応じての対応が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間にとらわれずに、利用者の要望に答えている。また夏にはゴウヤ棚を作って日よけにしたり、など、利用者喜んでもらえる対応や支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブをはじめ、絵、書道、楽器、編み物など楽しんでいる。また、カレンダーめくり、おしぼり巻き、雑巾縫い、野菜作りなど一人ひとりの力に応じて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の自然の中の散歩や、ドライブ、買い物、外食(回転寿司)など、外出の機会を楽しんでいる。庭にも自由に出入れ花壇や畑の収穫を楽しんだりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。職員は利用者に寄り添い、不安を取り除くケアをしており、玄関にはセンサーもついている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年1回実施され、食糧など備蓄については併設施設と一緒に用意されている。地域の企業の理解もあり協力体制が整っている。災害についての職員の意識も高い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のメニューは豊富で栄養バランスもよく立てられている。一人ひとりの利用者の状態や力に応じて細かく刻むなど食べやすさに配慮していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールから、居間(食堂)和室各部屋へ通じる広い回廊がありゆったりしている。南面には、花いっぱい庭が見渡せ、大きな窓に明るい日差しがやわらかく、居心地の良い空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの筆筒が置かれ、利用者が取り出しやすいように内容物が表示されている。椅子やポータブルトイレを置かれている部屋もあり、利用者の力に応じて生活しやすく工夫されていたり、好みのもの、思い入れのある物が飾られていた。		